

早期心不全の診断に関する研究

成人病のなかでも死亡原因の上位を占める心不全の早期診断に有用とされるNT-proBNPについて、健康診断受診者を対象にその効果を検証する研究です。

【研究の意義および目的】

心不全は極めて予後不良な疾患で、軽度心不全でも5年後の累積死亡率が高く、乳がんの予後と変わらないといわれている。予防対策としては、心不全の第一歩と考えられている高血圧、動脈硬化、糖尿病などの生活習慣病や心筋梗塞をはじめとする器質的心疾患などによる潜在性心不全を、症状が認められる前段階で早期に発見し、管理することが重要となる。

NT-proBNPを用いることにより従来の健診では見過ごされていた心不全予備群が抽出されることが期待される。今後はこの予備群に関して積極的な生活習慣の改善をはじめとした非薬物療法を実践し、進展のおそれがある対象者は早期の薬物療法を行うことにより重篤な心不全への進展が防止できると考えられる。

研究実施責任者／佐橋 徹 公益財団法人SBS静岡健康増進センター副所長
共同研究責任者／島田 俊夫 静岡県立総合病院臨床医学研究センター部長
古賀 震 静岡県立大学短期大学部 看護学科教授

※公益財団法人SBS静岡健康増進センター臨床研究倫理委員会にて承認済み